



セーフコミュニティアンケート調査 報 告 書

【令和3年度版】



十和田市まちづくり支援課

1 調査の概要

【目的】

本市の「セーフコミュニティ」の取組みを進めるにあたり、市民のセーフコミュニティの認知度等現状を把握するとともに、市民が求める安全・安心の取組みに対するニーズの把握や現在、領域別対策部会が中心になって実施している各種取組みを評価するための指標として使用し、今後の取組みに対するより一層の充実に資するため実施しました。

【調査対象】

十和田市内に居住する 18 歳以上（令和 4 年 1 月 1 日現在）の男女 2,000 人

【抽出方法】

住民基本台帳からの無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

令和 4 年 2 月 8 日（火）～ 2 月 28 日（月）

【回答数】

837 件（回答率 41.85%）

【質問項目の結果】

次ページ以降に掲載

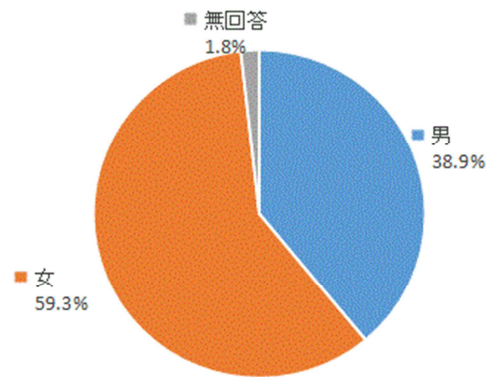
■各質問項目の結果

1. ご自身のことについて

問1 あなたの性別についてお答えください。

(回答は1つ)

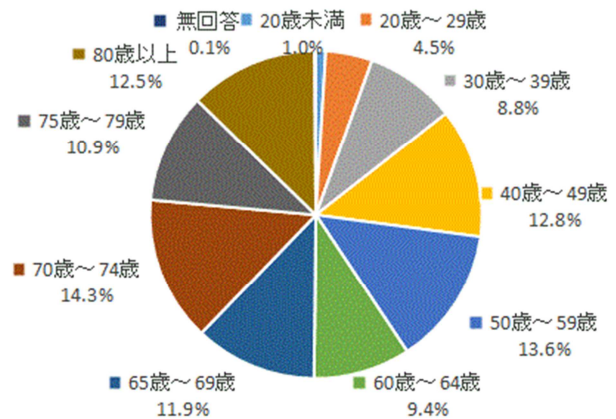
男性 326人(38.9%)
女性 496人(59.3%)
無回答 15人(1.8%)



問2 あなたの年齢についてお答えください。

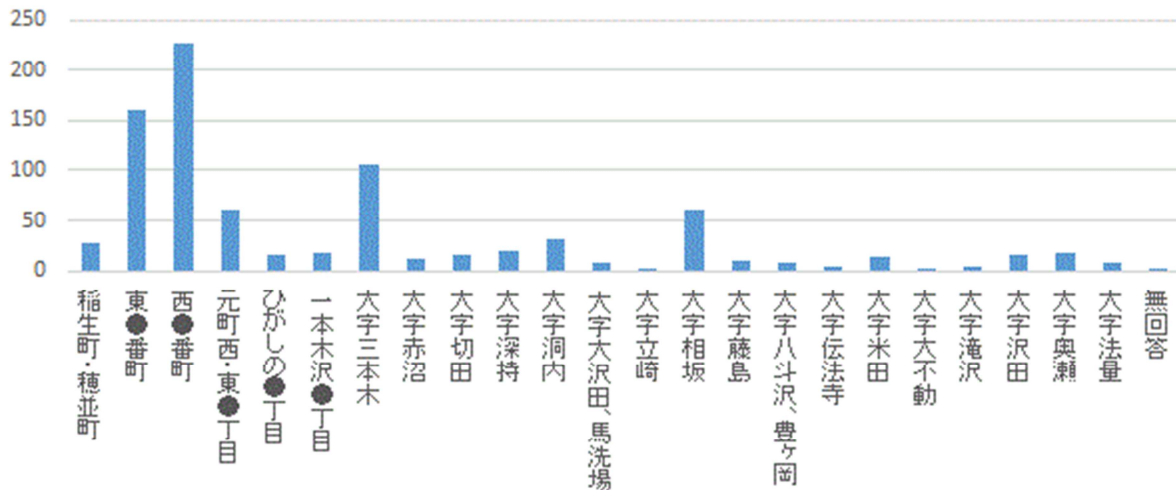
(回答は1つ)

20歳未満 8人(1.0%)
20~29歳 38人(4.5%)
30~39歳 74人(8.8%)
40~49歳 107人(12.8%)
50~59歳 114人(13.6%)
60~64歳 79人(9.4%)
65~69歳 100人(11.9%)
70~74歳 120人(14.3%)
75~79歳 91人(10.9%)
80歳以上 105人(12.5%)
無回答 1人(0.1%)



問3 あなたのお住いの地域についてお答えください。

(回答は1つ)

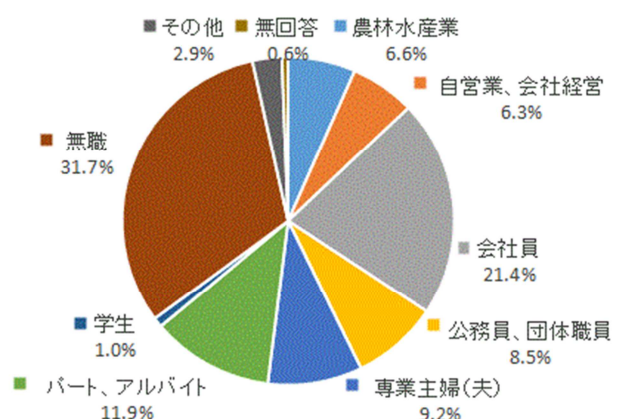


地域名	回答数	%	地域名	回答数	%
稲生町・穂並町	27	3.2	東●番町	159	19.0
西●番町	225	26.9	元町西、東●丁目	60	7.2
ひがしの●丁目	16	1.9	一本木沢●丁目	18	2.2
大字三本木	104	12.4	大字赤沼	11	1.3
大字切田	16	1.9	大字深持	19	2.3
大字洞内	31	3.7	大字大沢田、馬洗場	8	0.9
大字立崎	2	0.2	大字相坂	60	7.2
大字藤島	9	1.1	大字八斗沢、豊ヶ岡	8	0.9
大字伝法寺	3	0.4	大字米田	14	1.7
大字大不動	1	0.1	大字滝沢	4	0.5
大字沢田	16	1.9	大字奥瀬	17	2.0
大字法量	7	0.8	無回答	2	0.3

問4 あなたのご職業についてお答えください。

(回答は1つ)

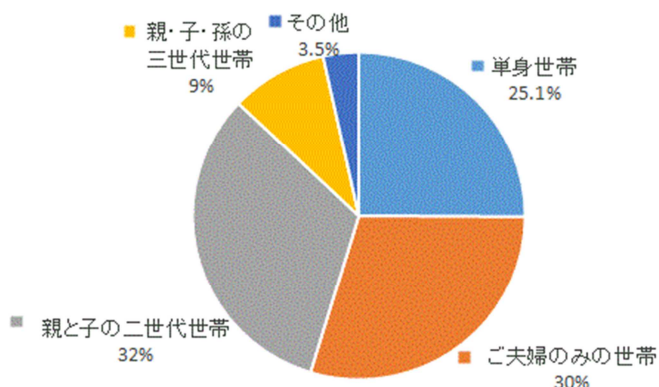
農林水産業	55人 (6.6%)
自営業・会社経営	53人 (6.3%)
会社員	179人 (21.4%)
公務員、団体職員	71人 (8.5%)
専業主婦(夫)	177人 (9.2%)
パート・アルバイト	100人 (11.9%)
学生	8人 (1.0%)
無職	265人 (31.7%)
その他	24人 (2.9%)
無回答	5人 (0.6%)



問5 あなたと一緒に暮らしている世帯の状況についてお答えください。

(回答は1つ)

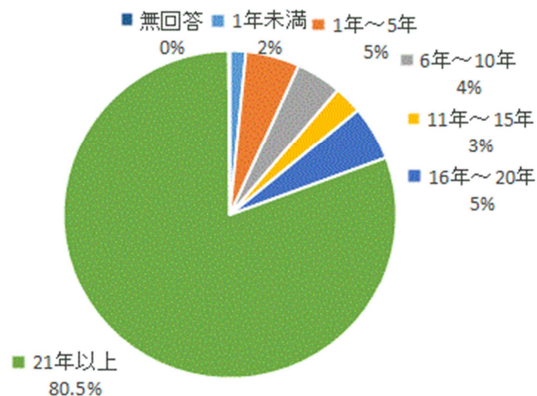
単身世帯	210人 (25.1%)
ご夫婦のみの世帯	248人 (29.6%)
親と子の二世帯世帯	271人 (32.4%)
親・子・孫の三世帯	79人 (9.4%)
その他	29人 (3.5%)



問6 あなたは十和田市に何年住んでいますか。

(回答は1つ)

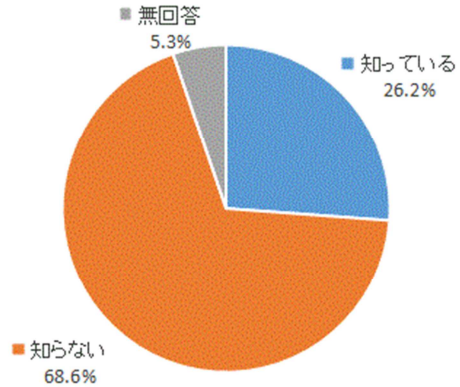
1年未満	13人 (1.6%)
1～5年	44人 (5.3%)
6～10年	37人 (4.4%)
11～15年	23人 (2.7%)
16～20年	45人 (5.4%)
21年以上	674人 (80.5%)
無回答	1人 (0.1%)



2. セーフコミュニティについて

問7 あなたは十和田市が「セーフコミュニティ認証都市」ということを知っていますか。
(回答は1つ)

知っている 219人 (26.2%)
知らない 574人 (68.6%)
無回答 44人 (5.3%)



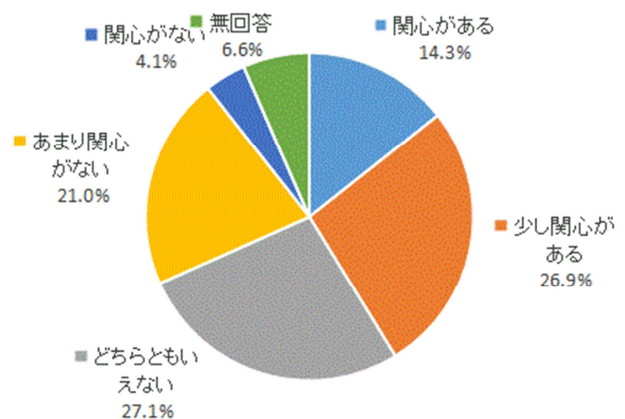
(参考：居住年数別)

居住年数	知っている	知らない	無回答
1年未満	1人 (7.7%)	12人 (92.3%)	0人 (0.0%)
1～5年	4人 (9.1%)	39人 (88.6%)	1人 (2.3%)
6～10年	7人 (18.9%)	29人 (78.4%)	1人 (2.7%)
11～15年	9人 (39.1%)	14人 (60.9%)	0人 (0.0%)
16～20年	9人 (20.0%)	35人 (77.8%)	1人 (2.2%)
21年以上	189人 (28.0%)	444人 (65.9%)	41人 (6.1%)
無回答	0人 (0.0%)	1人 (100.0%)	0人 (0.0%)

「知らない」と回答したかたが約69%となっており、「知っている」を大きく上回っている。また、居住年数によって、認知度の違いが伺える。

問8 あなたはセーフコミュニティの取り組みに関心がありますか。
(回答は1つ)

関心がある 120人 (14.3%)
少し関心がある 225人 (26.9%)
どちらともいえない 227人 (27.1%)
あまり関心がない 176人 (21.0%)
関心がない 34人 (4.1%)
無回答 55人 (6.6%)

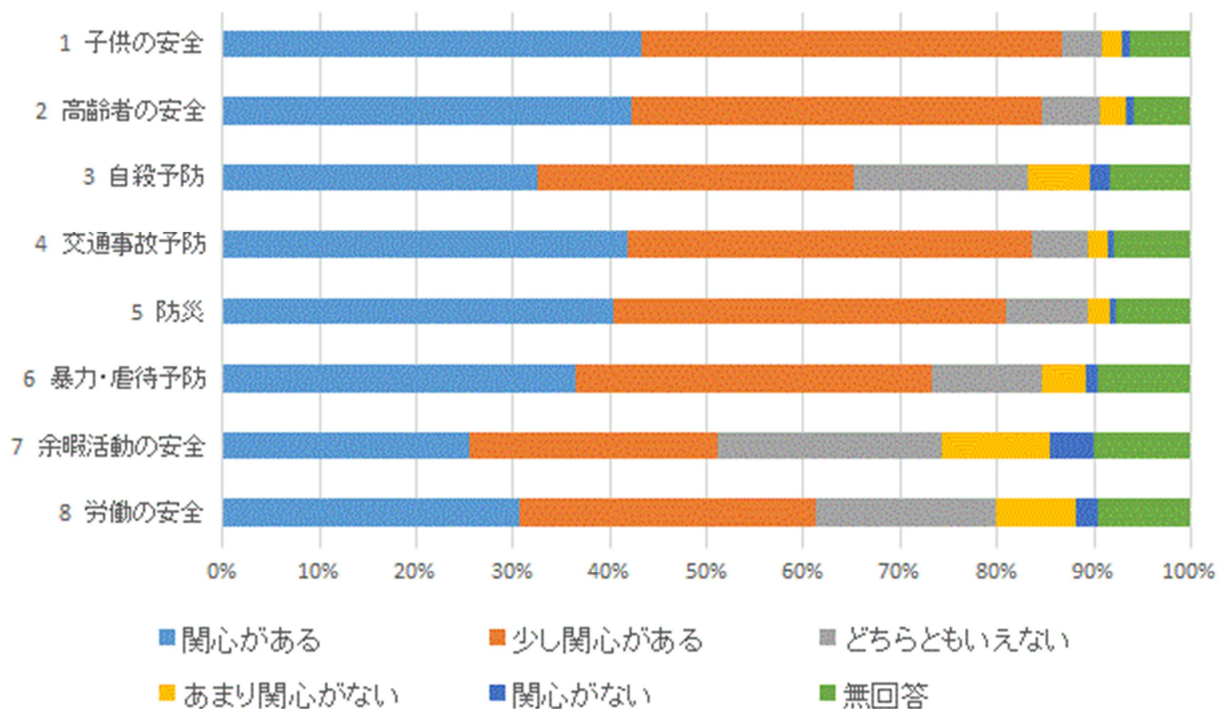


「少し関心がある」「どちらともいえない」と回答したかたがほぼ同数で、約27%ずつと多かった。

問9 十和田市のセーフコミュニティでは重点分野として以下の8分野に取り組んでいます。あなたはそれぞれの程度関心がありますか。

(回答はそれぞれ1つ)

	関心がある	少し関心がある	どちらとも いえない	あまり関心 がない	関心がない	無回答
子どもの安全	511人 61.0%	170人 20.3%	50人 6.0%	24人 2.9%	10人 1.2%	72人 8.6%
高齢者の安全	468人 55.9%	201人 24.0%	66人 7.9%	30人 3.6%	8人 1.0%	64人 7.6%
自殺予防	299人 35.7%	220人 26.3%	165人 19.7%	59人 7.1%	19人 2.2%	75人 9.0%
交通事故予防	431人 51.5%	239人 28.6%	59人 7.0%	21人 2.5%	6人 0.7%	81人 9.7%
防災	407人 48.6%	239人 28.6%	85人 10.2%	22人 2.6%	7人 0.8%	77人 9.2%
暴力・虐待 予防	336人 40.2%	256人 30.6%	105人 12.5%	41人 4.9%	12人 1.4%	87人 10.4%
余暇活動の 安全	204人 24.4%	246人 29.4%	183人 21.9%	89人 10.6%	36人 4.3%	79人 9.4%
労働の安全	256人 30.6%	259人 30.9%	155人 18.5%	68人 8.1%	20人 2.4%	79人 9.5%

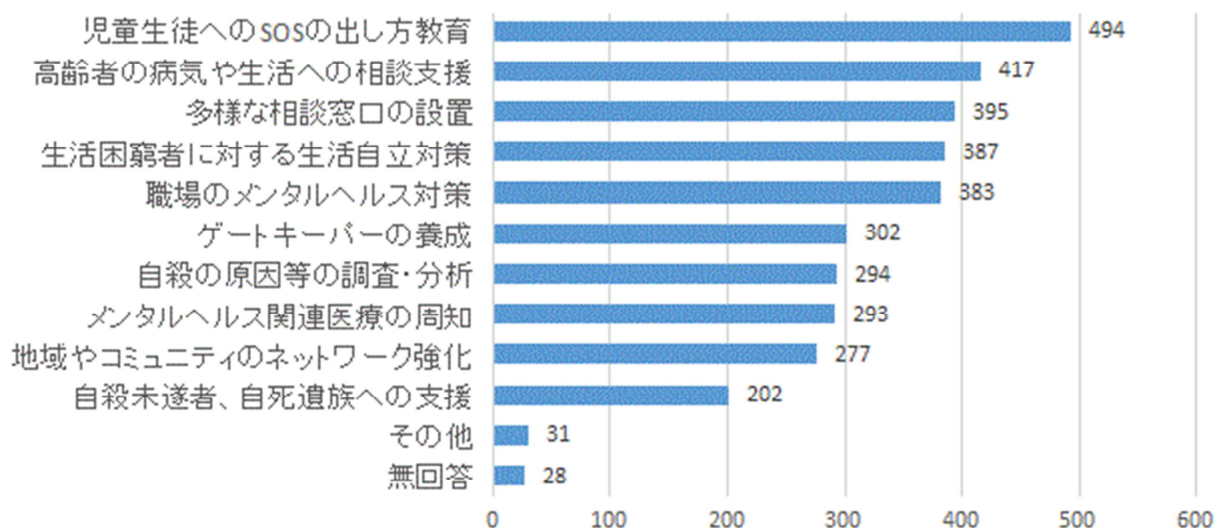


余暇活動の安全、労働の安全を除く6分野で「関心がある」に多くの回答が寄せられた。特に「子どもの安全」、「高齢者の安全」、「交通事故予防」は半数以上のかたが関心を寄せていた。

4. 各分野でのアンケート

①自殺予防

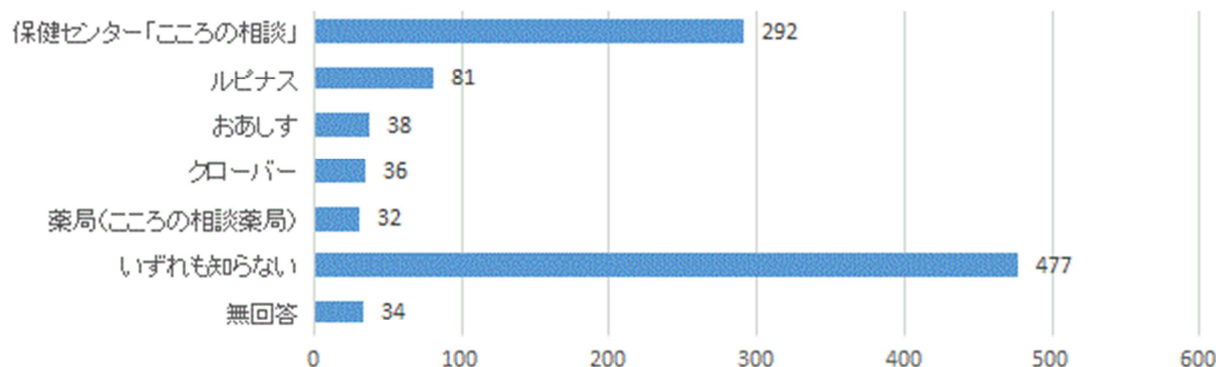
問 10 あなたが自殺予防対策の取り組みとして必要（効果的）と思うものは何ですか。（複数回答）



「児童生徒へのSOSの出し方教育」、「高齢者の病気や生活への相談支援」、「多様な相談窓口の設置」の順に回答が多かった。

問 11 あなたは市内にある心の悩みの相談先（傾聴サロン）を知っていますか。（複数回答）

保健センター「こころの相談」	292人（34.9%）		
ルピナス	81人（9.7%）	おあしす	38人（4.5%）
クローバー	36人（4.3%）	薬局（こころの相談薬局）	32人（3.8%）
いずれも知らない	477人（57.0%）	無回答	34人（4.2%）

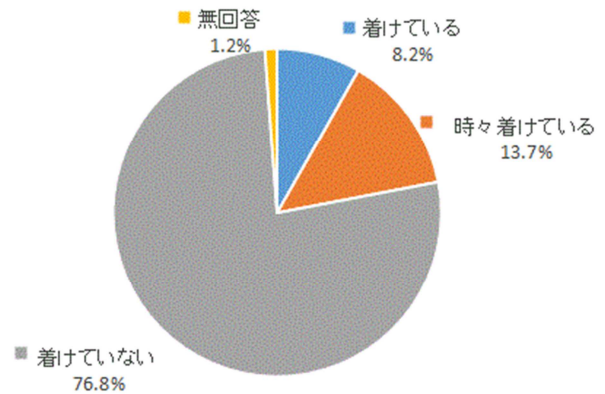


「いずれも知らない」が、全回答者の約57%と半数以上を占める。

②交通事故予防

問 12 あなたは衣服や持ち物に反射材をつけていますか。 (回答は1つ)

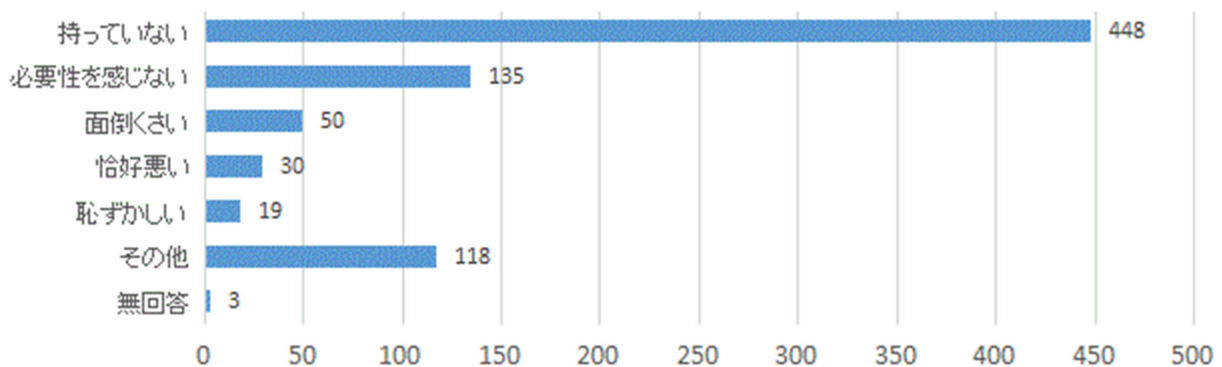
着けている	69人 (8.2%)
時々着けている	115人 (13.7%)
着けていない	643人 (76.8%)
無回答	10人 (1.2%)



「着けていない」と回答したかたが約77%と大多数を占める。着けている、時々着けているを合わせても約22%となる。

問 13 前問で「着けていない」と答えたかたにお聞きします。反射材をつけていない理由をお聞かせください。 (複数回答)

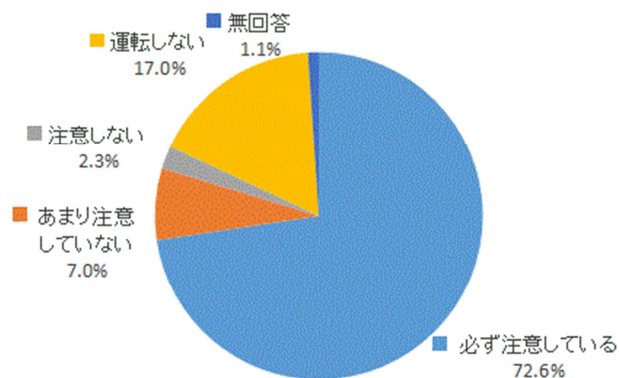
持っていない	448人 (70.0%)	必要性を感じない	135人 (20.1%)
面倒くさい	50人 (7.8%)	格好悪い	30人 (4.7%)
恥ずかしい	19人 (2.9%)	その他	118人 (18.3%)
無回答	3人 (0.5%)		



反射材を「持っていない」と回答したかたが、着けていないかたの約70%を占める。

問 14 あなたは車を運転しているとき、信号のない横断歩道で、横断しようとしている歩行者に注意していますか。
(回答は1つ)

必ず注意している	608人 (72.6%)
あまり注意していない	59人 (7.0%)
注意しない	19人 (2.3%)
運転しない	142人 (17.0%)
無回答	9人 (1.1%)



「必ず注意している」と回答したかたが全体の約73%と大多数を占める。運転しない人を差し引いて考えると、多くのかたが歩行者に注意していることが伺える。



(令和3年度セーフコミュニティ啓発活動@ユニバース東一番町店)

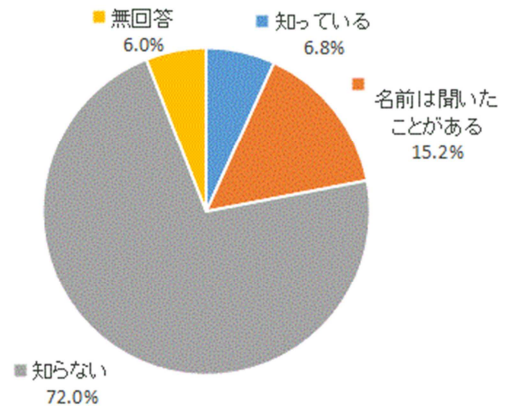
③暴力・虐待予防

問 15 あなたはオレンジリボンとパープルリボンの意味を知っていますか。

(回答は 1 つ)

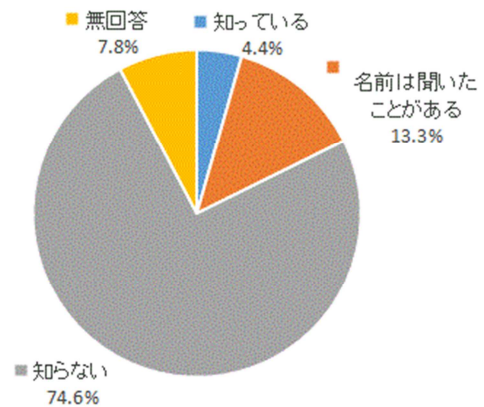
【オレンジリボン】

知っている 57 人 (6.8%)
名前は聞いたことがある 127 人 (15.2%)
知らない 603 人 (72.0%)
無回答 50 人 (6.0%)



【パープルリボン】

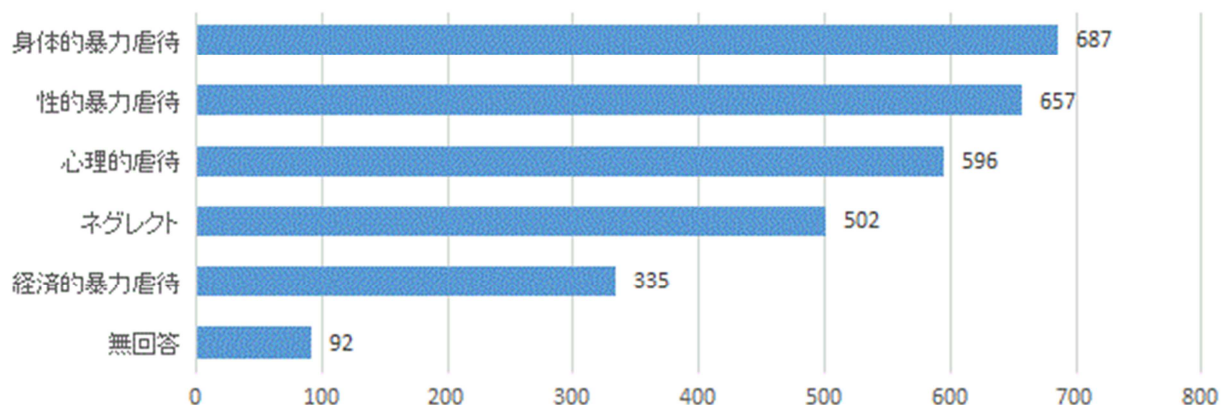
知っている 37 人 (4.4%)
名前は聞いたことがある 111 人 (13.3%)
知らない 624 人 (74.6%)
無回答 65 人 (7.8%)



国を始めとする各機関、団体等が広報等を通じて周知に努めているが、**ともに「知らない」と回答したが大多数を占めている。**

問 16 あなたは暴力・虐待には以下の 5 種類があることを知っていますか。
(複数回答)

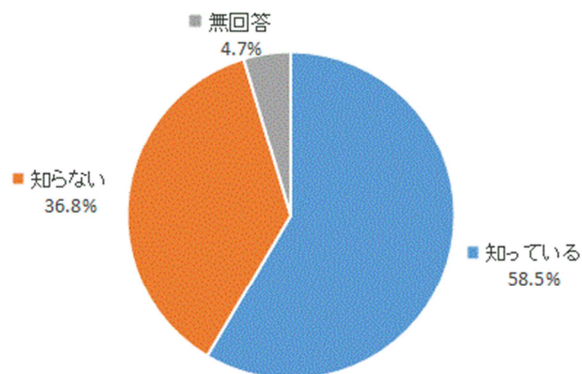
身体的暴力虐待	687 人 (78.7%)	性的暴力虐待	657 人 (78.5%)
心理的暴力虐待	596 人 (71.2%)	ネグレクト	502 人 (60.0%)
経済的暴力虐待	335 人 (40.0%)	無回答	92 人 (11.0%)



近年の社会情勢を反映し、**多くのかたが暴力・虐待について知っており**、その種類についても身体的、性的、心理的なものについては 70%以上が知っているという結果になった。

問 17 あなたは虐待の通報は、虐待の疑いがあると思う場合でも通報が受けられることを知っていますか。
(回答は 1 つ)

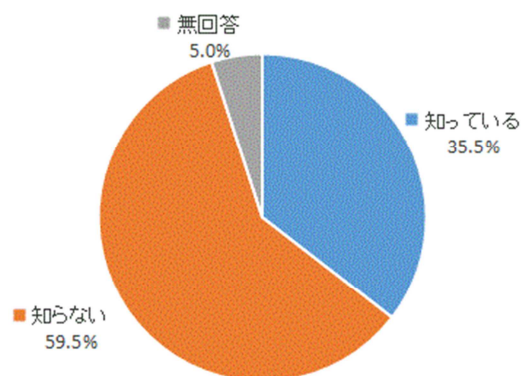
知っている	490 人 (58.5%)
知らない	308 人 (36.8%)
無回答	39 人 (4.7%)



通報が受けられることを「知っている」が約 59%で最も多かったが、「知らない」も約 37%と多い。

問 18 あなたは虐待の通報は、通報者が特定されないよう配慮されていることを知っていますか。 (回答は1つ)

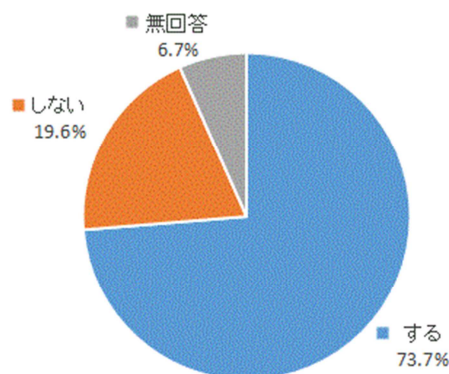
知っている 297人 (35.5%)
知らない 498人 (59.5%)
無回答 42人 (5.0%)



通報者への配慮を「知らない」が約60%と最も多く、「知っている」は約36%にとどまる。

問 19 あなたは虐待を受けた(受けている)と思われる子どもや高齢者等を見た場合、警察等に相談又は通報をしますか。 (回答は1つ)

通報する 617人 (73.7%)
通報しない 164人 (19.6%)
無回答 56人 (6.7%)

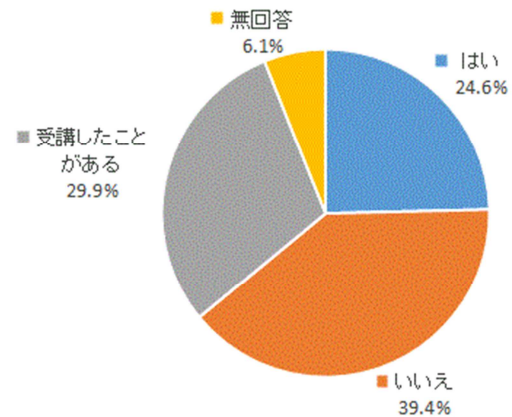


近年の社会情勢を反映し、約74%という多くのかたが暴力・虐待を見た場合、警察等に相談・通報すると回答した。

④余暇活動

問 20 あなたは余暇活動中の万が一を考え、救命講習会に参加したいと思いませんか。
(回答は1つ)

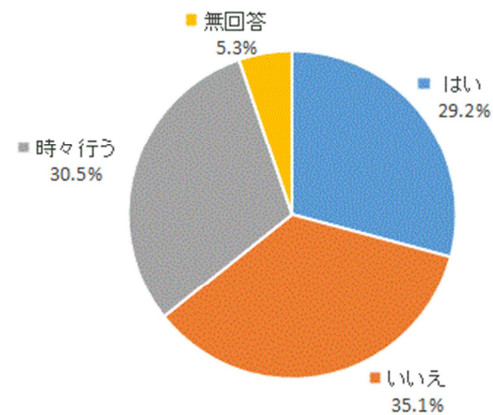
はい	206人(24.6%)
いいえ	330人(39.4%)
受講したことがある	250人(29.9%)
無回答	51人(6.1%)



救命講習会を受講したことがあると回答したかたが約30%を占めている。
また、講習会に参加したいというかたも約25%を占め、救命講習への意識の高さが伺える。

問 21 あなたは運動前後にストレッチ(準備運動等)を行っていますか。
(回答は1つ)

はい	244人(29.2%)
いいえ	294人(35.1%)
いつもではないが時々行う	255人(30.5%)
無回答	44人(5.3%)

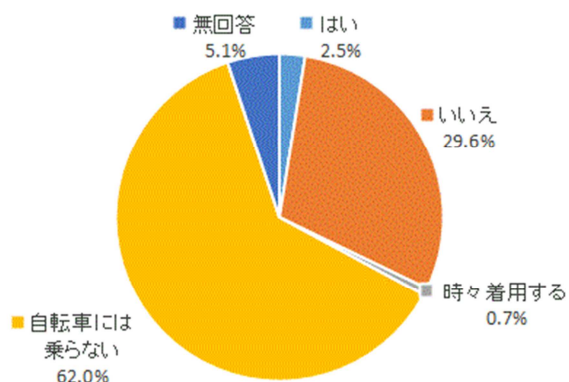


「いいえ」と回答したかたが約35%となり、運動前後にストレッチを定着させていく必要がある。

問 22 あなたは自転車を運転する際、ヘルメットを着用していますか。

(回答は 1 つ)

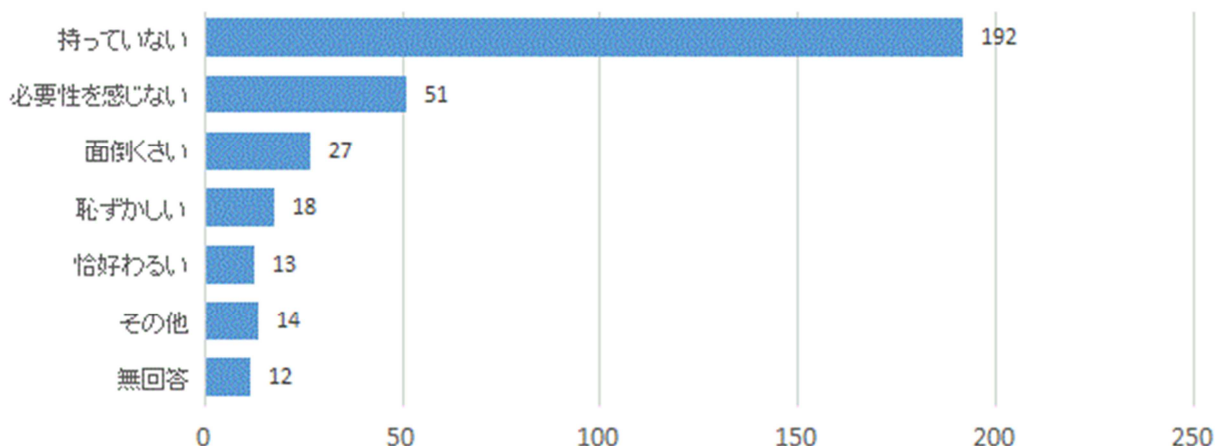
はい	21 人 (2.5%)
いいえ	248 人 (29.6%)
時々着用する	6 人 (0.7%)
自転車には乗らない	519 人 (62.0%)
無回答	43 人 (5.2%)



「自転車に乗らない」と回答したかたが約 62% を占める。そのような中、自転車に乗る人の大多数のかたはヘルメットを着用していないという結果になった。

問 23 前問で「いいえ」と答えたかたにお聞きします。着用しない理由をお聞かせください。(複数回答)

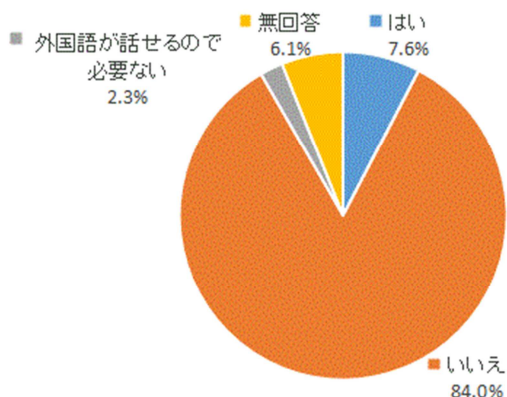
持っていない	192 人 (77.4%)	恥ずかしい	18 人 (7.3%)
面倒くさい	27 人 (10.9%)	恰好わるい	13 人 (5.2%)
必要性を感じない	51 人 (20.6%)	その他	14 人 (5.6%)
無回答	12 人 (4.8%)		



ヘルメット自体を持っていないかたが着用しないかたの約 77% を占めており、着用する習慣がないことが伺える。

問 24 あなたは外国人観光客等からケガや病気で助けを求められたときのために翻訳アプリ等をダウンロードしていますか。 (回答は1つ)
 ※言語は英語、中国語、韓国語と想定します。

はい 64人 (7.6%)
 いいえ 703人 (84.0%)
 外国語が話せるので必要ない 19人 (2.3%)
 無回答 51人 (6.1%)



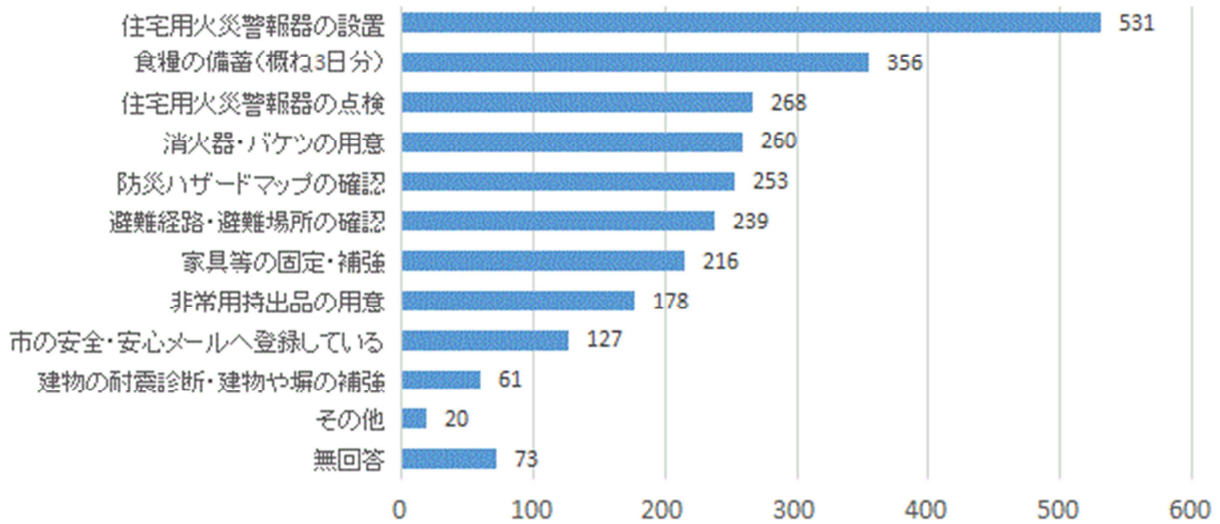
翻訳アプリ等をダウンロードをしていないかたが約84%と大多数を占める。



(令和3年度ふるさと出前きらめき講座@県立三本木農業恵拓高校)

⑤ 防 災

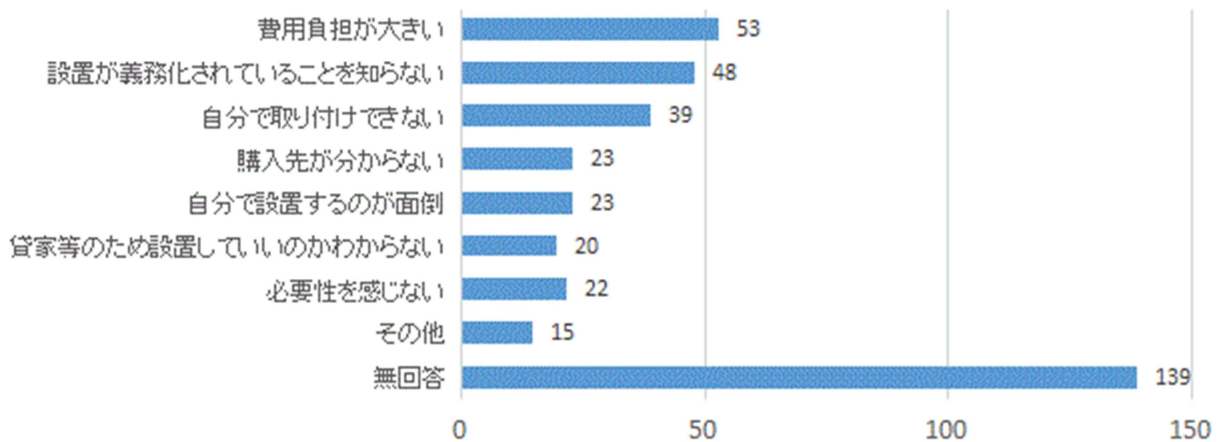
問 25 あなたご自身やご家庭では、地震・風水害・火災等の災害に備えていますか。
(複数回答)



「住宅用火災警報器の設置」、「食糧の備蓄」、「住宅用火災警報器の点検」の順で災害に備えているという結果となった。

特に、火災に対しての備えを重視していることが伺える。

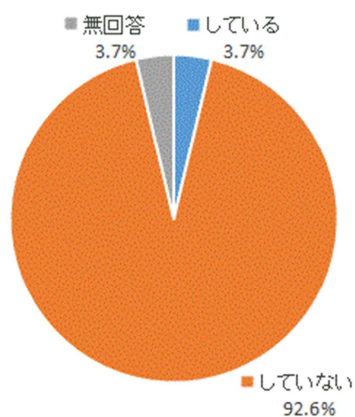
問 26 前問の中で「住宅用火災警報器の設置」に✓しなかったかたにお聞きします。住宅用火災警報器を設置していない理由をお聞かせください。
(複数回答)



費用負担が大きいことや火災警報器設置義務の認知度が低いことが伺える。

問 28 あなたは地域の人たちと災害時の役割分担の話し合いをしていますか。
 (回答は1つ)

している 31人 (3.7%)
 していない 775人 (92.6%)
 無回答 31人 (3.7%)



「話し合いをしていない」と回答したかたが約93%と大多数を占める。今後は地域コミュニティの役割がより重要になると考えられる。



(県立十和田西高校 令和3年度安全功労者内閣総理大臣表彰 市長表敬)

■セーフコミュニティ活動等に対するご意見・ご提言

(回答内容につきましては、誤字脱字等も含め、原文のままとしておりますので、予めご了承ください。)

1. セーフコミュニティ全般に対するご意見・ご提言

No.	コメント
1	このような取組みがあつてありがたいです。私も知らない事だらけです。
2	知らない事が沢山ありました。これから気をつけて、いきたいと思います。
3	思っていた以上に十和田市で色々やっていた事に気がきました。人は関係ないと思わず、散歩の時、買い物の時など、周りの人の事を見るのも大事だと思いました。
4	セーフコミュニティ活動に参加したいけど色々といろんな事がかさなりできないです。問24ですが翻訳アプリ等をダウンロードかいているけどそういうものが持っていないので。
5	前向きな活動だと思います。できることは応援したいとも思います。しかし一方で、2009年からの約13年でどのような活動をして、何がどのように変化したのかが見えません。認証をもらうための活動をしているように見えます。啓発活動も大事な活動ですが、何かもっと具体的な、必要にせまった活動を望みます。
6	相談を受ける側の職員のコーチング脳力や、それに基づき、問題解決につながる様なシステムを構築してほしいです。 ただ・業務を遂行して仕事をこなしていくのではなく、問題をかかえている人々を、家族のように親身に思い、活動していただきたいです。
7	高齢者が生涯現役で働ける場所があるといい。 「セーフティーコミュニティ」とカタカナの名前だと、高齢者が関心をもちにくい気がする。
8	とても良い取り組みとは思いますが、ただ、現実には、今の社会状況、又、コロナ禍が長びく中では、個人情報保ごのため前もあり、人と人のつながり、見守り方が大変むずかしいと実感しております。まずは、子どもたちにSOSを出してもいいこと、出来ないことを訴えていいことを認めてあげる大人側の心がまえ、対応力を育てることが重要だと思います。子どもは大人を見ています。そして、成長…意外と時は早く流れ社会をにないますから。
9	この調査依頼が来て初めて市が運動されている事を知りました。地域のコミュニティが希薄になって来たので活動は難しくなりますが必要な事だと思います。
10	いのちを守る為に大変良い活動です。どんどん、やってほしいと思います。
11	すべての設定には感心はあるつもりですが、今のところ身近に強く感じたことがないので、すこしは実践、協力するよう心掛けたいと思います。
12	セーフコミュニティ活動に対して、とても興味をもっています。これからの時代は「自自助」「共助」「公助」がキーワードとなります。そのためにも、この活動をもっと広く周知し、多くの市民の理解が深まることを期待します。
13	あおもりおまもり手帳をテーブルに置いてたまに見る目を通す様にしています。高齢ですのでおせわになることが沢山あると思いますので出来ることはこうけんしたいと思っていますよろしくお願いします。
14	安心して住める街、安全な街にして誰れとでも気軽に話せて楽しいまちづくりを継続して誇れるまちをめざしましょう。 その方法の一つに企業等多く仕事ができ都市基盤を整備しここなら永住してみたいと思う情加街になれば将来いいなあと。
15	今の時代、個人情報が優先すると思うので、活動に加わりたくないです。自分のように高齢者になると、どこまでかかっているのかわかりません。ご近所とのつきあひもあいさつぐらいが良いと思っています。
16	町内会単位(1つの町内会だけでなくもいい)で活動してもいいと思う。市政だよりを配布したり、集金の仕事をやるより、よほど意味がある
17	コロナの流行で、集まる事が出来ないのと、私は高齢の両親を世話をしているので簡単には活動できないし情報もとれない様々活動としているとは思いますが市民に対してもう少し知ってもらう努力をお願いします。(目にとまる様に看板でも作ればと思います。老人はスマホとかは使えない事が多いですから)
18	80代になり、一人暮らしはだんだん大変になり、記憶忘れや生活面で大変です。寒さが身にしみ、元気でいられたのが、買物、生活、病気、認知の憶ろえで、将来が心配です。
19	事故やケガにおそれすぎても、何も挑戦できなくなるとありますが、災害にそなえることは必要だと思います。今後とも、活動について、応援させていただきます。
20	ほとんどどうすれば良いのかわからない。となりの人達との関わりもなく、家にいるだけ、バスも通らない今は自動車運転できているけどこの先どう接するべきか?なやんでいる。
21	色々な活動が有りますが、一部の人たちだけで満足しているかんじがする。 十和田に来て十数年たちますが、人の命を考えるのでは、いちばんかんじたのは車の運転、とにかく信号むしが多、赤でもへいきに通っていく、朝の子供の通学の時すべてではないが、もっと安全が確保されるような、工夫が必要でわなかと思います。

22	セーフコミュニティがよく知らない。いろいろ関わっていると思うがそうなのか、そうでないのかわからない。とても大切と思うが、個がすべてに気をつけて生活行動ができることが大切、ながなかつたりさんとも会話できていないし、する時間もないです。
23	世界で159、日本で14→あまりにも少なすぎる、なぜか知りたい。 県内で当市だけ→他の市町村はなぜ受けないのか知りたい。 活動のための国の助成金は?、市の予算は? 行動があまり見えない。町内会単位で家庭訪問を提言します。又は市主催で町内会集会所等で活動状況等の説明会の提言。
24	セーフコミュニティと一言に言っても、様々な側面があるのだと思いました。セーフコミュニティについての啓蒙活動が必要だと思いました。
25	セーフコミュニティとは何ぞや。そして十和田市では8分野に取り組んでいることを今回知りました。そのひとつひとつの説明があり、昨今子どもへの虐待、いじめによる自殺等多いので、こういうことへも対策・予防への取組みは大切と感じました。
26	地域住民との交流がないため自ら出向いて各種活動等に参加、協力するチャンスやきっかけがない。日常生活の必要情報は、各広報紙等で入手している程度です。 高齢者のコミュニケーションは難儀な問題だと思います。
27	子供や高齢者に注目して目を向けることはとても大事なことです。もう少し若者にも目を向けて欲しい気がします。若者が気軽に相談できる場所や若者差別防止など過ごしやすい環境づくりしてもらえたら嬉しいと思います。
28	コミュニティー活動について調査票をよんで大変参考になると感じました。今後は、質問予防について、よく理解をして頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。
29	今回のアンケートで自分自身をチェックできたことは良かったです。 一方WHOのセーフコミュニティの認証にこだわらず、市として今回のようなチェック、啓蒙活動はできるので、そちらに注力してはいかがでしょうか、
30	個人的に何をすればいいのかわからない。もっと具体的な行事、講習等を教えてくれると参加してみたい。
31	私自身SCの支援を受け生活しておりますが、もっと行政への問い合わせ等、受けられる支援内容やサービス内容をわかりやすく説明した本のような物があれば便利だと思います。
32	情報が一般的に少ないと思う。当地域でも若い方が少ない地域だと思っているが活気がないときびしい。スピードを出しすぎる車が多して困る。
33	ますます。拡大して普及してほしい。
34	十和田湖畔にも是非コミュニティーの場所を設置してほしいです。
35	十和田市がセーフコミュニティ活動をしていることを自慢に思います。私は母の介護をしているのですが「楽しい」と思えることが自分達を支えているのだと思います。人によって「楽しい」ことはそれぞれ、十和田市が市民に多くの「楽しい」を提示できるようになってほしい、特に高齢者の多い十和田市が取り組むべき一つの課題になるのではと考えました。
36	最近、TVのニュースに殺人事件のニュースが頻繁に有り、いつ身近に起こるかを考えると不安になる。安心出来る、おだやかな世の中になる事を強く望む。
37	このアンケートで自分の認識不足を感じ情けないと思いました。 これから、関心を持って暮らしていきたいと思いました。
38	住みごちの良い街づくりに参加したい。
39	活動の内容がよく分らない。
40	人間が健やかに生活していく上で、とても重要な活動だと思います。知らない事も多く、勉強になりました。
41	事故やけがの予防のためには、マナーの向上、施設・設備面での安全対策も考慮すべきだと思います。(継続的な取り組みがもっと必要ではないでしょうか?)
42	困った時の相談先の一覧があると良いと思います。個人情報などプライバシーで近所の方へ相談や助けを求めにくい時代になっています。
43	電話だけでは無く、メールなどの文章でも、相談出来る窓口があると、相談がしやすいです。(社会性の低い身としては、電話での相談は、ハードルが高いので。)
44	母子家庭の支援は多くありますが(子供食堂等)障がい者、またその家族の支援もお願いしたい。今、ウィルスで支援学施設に通っている人、その家族は本当に困っている状態です。十和田市では施設に通っている人のワクチン接種が一般の人と一緒にした。先にしてほしかったですね。重度だと自分の体の変化を伝えないので、困っているこんな話、他もそう言う思いを伝えられる場が必要です。

2. セーフコミュニティの各分野に対するご意見・ご提言

No.	コメント
1	最近、スマホながら歩行、自転車乗りが見掛けられ、又、ペットを抱いた運転者もいます、注意喚起も必要と思います。
2	積雪時のバイクや自転車の使用をやめること(ゆう便配達の人がころんでいるのを見ましたよ)
3	自転車にはよく乗っていますが、ヘルメットは大事だと思っています。また、バックミラーもつけるべきだと考えています。しかしどちらも義務ではなく、「恥ずかしい」「誰も使っていないし」という理由で不所時に。義務化とは言わないまでも、所持・装着が当たり前になってほしいです。
4	交通事故予防として、右折信号を設置してほしい所や、一方通行だとわかりにくいところなどがあります。(ずっと住んでいる方は慣れているのかもしれませんが、市外から来ると非常に危険だと感じています。)あと、細い道から出る時に子どもが走ってきたり、自転車が走ってきたりしてミラーにもうつらずとも危険です。それから雪が降った後の除雪が下手あるには全くしてなくて道路が非常に悪く、でこぼこな状態で固まっていたりして、本当にあぶないです。平らな所もツルツルで、もっと対策してほしいです。
5	冬季、車道、歩道ともに状況が良くない。コンビニの駐車場も一面スケートリンク。いつ事故があっても不思議ではない。8つのとりくみの中では、この交通面が最大の問題。
6	横断歩道に人、特に子供、学生がいても止まらない車が多すぎる。歩行者が横断歩道を渡る時に、車を優先的に行かせないと睨んでくるドライバーがいる。取り締まりして欲しい。 関東から引っ越してきたのですが昼間の飲酒運転している人が多過ぎる。家族も身内が捕まると困るのか暗黙の了解になっている。警察の一時不停止の取り締まりも大切だが、飲酒の取り締まりを強化した方がいいと思う。
7	お年寄りの運転に危険を感じる人が多いです。(ウインカーをつけず曲がるなど)呼びかけや指導を強化してほしいです。
8	関係ないことかもしれませんが、朝学校へ送迎されている車について、安全のため信号をさけ細い道を通るのは遠慮してほしい。
9	高齢者向けのコミュニティばかりで、若い人、子育て中の母親たちの集まれるようなコミュニティが少ないので、カフェのような所に、カウンセラーや相談など気軽に出来る場があればいいと思う。
10	歩行者信号が少ない。 街灯が少ない。 車道を横切る歩行者(特に高齢者)が多い。 自転車のマナーが悪い高齢者が多い(右側歩行、後方確認せずいきなり反対側へ横切る、信号無視など)。 歩道がガタガタ(免許返納し、電動カートに切り替えた方が困っている所に遭遇した事があります)。 車の信号無視がとにかく多い(赤に変わった瞬間は"進め"なのか。タイミングにもよるが何くわぬ顔絵"当然のようにいく人が多い")。スマホを見ながら通話しながらという人も良く見かけます。市と警察署の連携を強化した方がいいと思います。)歩道に当たり前のように駐車されるのも迷惑です。 車道を歩く事になり危ないです。 実際に色々な通りをあらゆる時間帯に歩いてみないと歩行者(特に子ども、高齢者)の気持ちには寄り添えないのではないのでしょうか。
11	メンタルヘルスを受診している方々が、働ける場所を(会社等)広げてあげたいです。少しずつ自立できるように。知らないことが多くて、このアンケートで、知ることができました。
12	避難訓練等町内で実施出来るようにしてほしい。災害時の役割分担の話し合いをしてみたいです。
13	十和田市で大きな災害(地震、八甲十和田湖の噴火等)の場合避難所での非常食、毛布他の対応が大丈夫なのかと心配しています。
14	自分の働いている職場で避難訓練を行ってなく、提案しても流されてしまう。んで、いざとなった時にまちがいなくパニックになると思う。だから義務化するもしくはなんらかの方法でやるべきシステムを作ってほしい。最近、建物やビル火災の悲さんな事件が多いので、犠牲者が多くなる前になるべく早く対策すべきだと思います。
15	防災マップの避難先でいつも思っているのですが私共の家は、十和田中学校になっていますが十和田中学校まで歩いて40分以上かかります。三本木小学校は15分、体育センターも10分～15分です。町内ごとに決めると町内の人の安否とか状況がつかめるから都合がいいかもわかりませんがもう少し考えてほしいと思います。(実態に合ったマップにしてほしい。)
16	私は町内および十和田市の防災に関し、もっと改善すべきと考えており、特に町内、行政で防災に携わっている方々の考え方が、実情に合っていないにもかかわらず、とりあえず発電機と少量の食料を集会場近くに備蓄して満足しているように感じる。 私も防災士の取得、防災リーダー研修の受講により、知識の取得と改善に努めてはいるが、行政から各町内会に正しい知識を伝え、また、若い世代を取り込む活動に力を入れていただきたい。

17	いつも防災訓練を見ていて、実際に障害者の人にも参加してもらった方がいいと思う。車椅子に座っている人が健常者であれば本当の意味でも大変さがわからない、たとえば足の悪い私のような場合は全体プラス車椅子プラスの重さがでてくる。それは、目の悪い人、耳の悪い人それぞれサポートの仕方が違ってくるところから。
18	大会には参加しているが十和田にいと防災はピンとこない。町が活気がないので何かしてほしい。
19	アンケートのおかげで、特に後まわしになっていた。防災の準備をしていきたいと思います。
20	住民の啓蒙も大事だが、防災環境の整備が必要だと感じる(例り土石流の防止)
21	防災について、自分の命は自分で守る。自分の判断で動くことを3.11で周知されていらい備えています。過度に行政に頼らないように心がけています。
22	もう十和田に来てから30年過ぎましたけど、市民を集めて地区ごとに防災(特に火災等)のくねれんを年に1、2回みせてほしい。十央の広場で行ってほしい。
23	街路灯が少なく、夜暗い。犯罪、事故防止のため。もっと多く設置して欲しい。(特に通学路には)
24	自分の住んでいる住所に対しての防災ハザードマップや避難場所や経路についての周知が行われているのだろうか?全く目にした覚えがない。各戸に対して、市がそのような事業を行っているのなら、失礼をしてしまいますが、全くわからないのが現状です
25	学校等がひなん地域になっているれいがあるが、校庭はひくく、校舎は自宅と高さが変わらず、これではただ学校に集っただけではないか?意味がないと思われる。食料等の配給場所ではないか。冬の除雪について、除雪車は除雪せずに、ただふみかためている様に思われる。特にマンホールのふたの上と道路とでは、10cm以上の高さの差があり、これでは歩く人や車の通行のジャマ等にいたり、車こわしの道路で、歩道の雪もかたづけけない。子供は雪がふっているのに歩道の雪もかたづけけない。これでFGと言えるのですか。
26	災害(地震・水害・住居破損)時の地区ごとの避難場所を、もっと大々的にPRして欲しい。
27	十和田市の暴力・虐待の現状を知りたい(広報などで周知してほしい)、どこかで他人事と思っているのが現状の人が多と思う。
28	家庭内での暴力虐待や児童生徒のいじめ等について通報したとしても関係する警察や福祉事務所等或いは学校関係教育委員会等が逃げ腰のように思われるので問題解決に向けて良く連携を取ってほしい。(テレビや新聞等の情報を見た感想。)
29	10代のけがについて、小中登下校について、車の送迎が目立ちます。徒歩にすればもう少し、体力・筋力もついてケガの軽減にもつながるのではないのでしょうか。
30	セーフコミュニティ活動に、関係はないかもしれませんが、引きこもり成年人等の職業訓練所や、そういう悩み等がある人達の1歩、踏み出せる場所があったら良いなと思います。
31	労働の安会対策について 農業等の自営業者に対する安全講習を受講する機会を設けると良いと思います。 第三次産業・冬期の転倒による負傷防止について、各家庭を通じて周知するのが良いと思います。

3. セーフコミュニティの周知等に対するご意見・ご提言

No.	コメント
1	セーフコミュニティを取得したあたりは知ってるが、それで具体的にどう行なわれているか知らせる機会が少なかった気がする。
2	広報、学校などに配布する形で、セーフコミュニティに関するチラシを作成して配ってほしい。項目が8分野と情報が多いので、まとめた物のと、1つずつ説明した物をつくってほしい。 例えばクイズに答えて、応募した中からプレゼントもらえるとか、何か特典があると興味を持ってもらえるかも。
3	公報にて知るのみで、いつ、誰が、どこで、どんな風に活動しているのか全然見えないし、聞こえて来ない。一部なのは？大事で立派な事だと思いますが、官民一体ですか
4	自分自身セーフコミュニティの活動を知らないので利用することができませんでした。私のような活動を知らない人達にもさらに認知してもらえるような工夫をしてみるのも大切ではないかと思えます。私も周囲に相談が必要な人などがいたら教えたいと思えます。
5	活動しているところがわからない。一般的に知られていない？
6	セーフコミュニティ活動はとてもすばらしい活動だと感じるが、実際に市民に対してあまり周知されていないと感じる。町内会等と連携し、様々な取組を知る機会や、参加する機会を増やし、活動が続いていけばよいと感じる。
7	イマイチ、活動をしているのが目に付きづらいので、広報にも力を入れた方がよいと思えます。
8	こういった活動がある事を初めて知りました。町内会の集まりでも聞いた事が無い状態で、広報にのっているのでしょうか？
9	『セーフコミュニティ』の周知が必要と思う。ゆえ、知らない人が多いと私は思う。又、活動結果(成果)を市民に知らせるのも十和田市の義務。結果的に周知・理解される。
10	特にありません。こんな係がある事も知りませんでした。なんの係でもそうですが、もっと市民にアピールした方がよいと思えます。
11	活動内容を積極的にPRしてもいいと思う。
12	活動に参加したことはありませんがどのような活動をしているのか、もっと、くわしく知りたいと思えます
13	セーフコミュニティの活動や運動が自分には見えていません。市民への周知をもっと行い、この活動が必要な人の助けになって下さい ○広報に大きくページを使う、新聞広告に入れる、各学校へ行って告知する。
14	セーフコミュニティ活動について全く知りませんでした。広報活動が足りないのではないのでしょうか。
15	セーフコミュニティ活動について、多くの方々に知ってもらうために、広報の活用が良いかと思えます。(広報にセーフコミュニティのことを毎回掲載する。時々特集版も作る。)
16	毎月広報とわだに、記載してみてもどうでしょうか？市民1人1人に伝える事が出来ると思えます。8分野全部伝える事は大変ですが、町内会など利用し取り組みをしてみてもどうでしょうか？
17	本件アンケートは、市公報ともう少し整合性とか共通性のある活動内容としてけいもう、されていけばよいのかと思えます。
18	申し訳ありませんが“活動”している事を知りませんでした。大ダイ的にコマースシャルを!
19	SCの必要性、認識度、関心度をもっと高めるべきではないのでしょうか？
20	地域の維持・発展のためにも、子どもや若者が安心して暮らせる街になる様に、セーフコミュニティ活動がもっと周知されて欲しいです。
21	広報等でのPRがもっと必要と思われる。
22	10年以上セーフコミュニティ活動をしていたこと知らなかったのので、認知度を広めた方がよいと思えました。
23	申し訳ないが、身近にかんじない。とても大切な事だとは思えます。十和田市が世界に対応している事を全面的にアピールする発信力が必要だと思えます。

4. 市政や地域等に対するご意見・ご提言

No.	コメント
1	市民が市長に意見を直接できる機会を設けてほしい。
2	会社退職後まったく社会活動に参加する機会がない。
3	町内会に入り班長をすることで最低限の見守り状況が把握できる。
4	十和田市は、市内中心の町づくりをしているため、市外はかそく過が進み、コウレイの生活が出来なく、自殺する人が多い。病院に行くのも、薬もらうのも、足がなく、買い物にもいけない。買い物、病院のサポート、フロなど、一番必要だから、お金のない人は死ぬしかないのだ。自由に足になる車又はタクシーあったら最高。 役所はシンケンに上記の事を考えていない。信用できない。バスも利用が少ないから小さい車にしたらケイヒもうく。予約制とか？
5	市推奨(直営とか)のシニアアパートとかシニア用住宅があるといい。雪片付、高い所の色々(修理、電球交換等々)、転んで骨折するのが怖い。見回る人がある施設があると入りたい。その上で防災訓練や地域活動に参加したい。
6	このように、アンケートに回答したら、意見を反映して下さるのですか?市長は箱物を作ることしか考えていない/行こう気がないように見えます。市民の生活を良くする為に建物を建築する以外のことを考える気はあるのですか。意見を反映しないのなら、このようなアンケートすら税金の無駄ですよ。
7	高齢者がかなり多い地区、冬など雪かき等朝からして車道に車がきても気付かないケースもあります。子供も通学路だけではなく高齢者のためにも何かを検討して頂きたいと考えます。
8	冬期間の道路状況が悪すぎて交通事故につながっていると思います。(車道も歩道も)
9	冬場は、広い道路は除雪がされ凍っていないが狭い道路は「わだち」になって凍っている為に高齢の方の転倒につながるので除雪を行ってほしい。
10	お願い十和田市で80才以上の人で一人暮らしの方除雪の件ですが玄関前に雪のかたまりを平気で置いて行くなるとかならないでしょうか。私の案ですが80才以上一人暮らしの方玄関に竿に旗でもおく方法考えて下さい。旗をみて除雪してもらいたい。
11	交通安全ですが、十和田市は他の市町村と比べると除雪が昔と違って悪く、歩行者や自動車等々安全に走行できない状態と思います。もう少し除雪に配慮をお願いします。
12	大雪の際、横断歩道の出入口がふさがっている。子どもの安全のためにもせめて通学路は早めに対応してほしい。 轍がひどいまま放置されている。除雪が遅い。東京23区内のマンホール聖戦のような取り組みを参考にしたい。 中央公園と図書館の間の通り、駐車違反が目立つ。
13	高齢者が冬でも安心して歩けるように除雪を丁寧に(歩道)お願い致します。
14	もっと人あつまる町にしてほしい
15	年令とコロナの関係でたった一つの運動も施設休館のため出来ません。一日も早いコロナの終息を願い、前のようにいろいろな活動が出来ることを期待します。
16	年寄りよりも、子どもや若者を大切にほしい。
17	他指定都市の取り組みの活動や成果等を知って参考してほしい。
18	近所は皆共稼ぎのため日中はまわりに人がいません。日中何かあっても老人二人の事をたのめる人がいません。
19	ルールや決まり事にあまりにこだわりすぎて、町内会や、近所の方々がギスギスしたりしないと良いと思う。 町内会のルールで人を口撃しているのを見たりしたので、少し、戸惑いや恐怖を感じました。お互いが支えあえるコミュニティ活動であってほしい。
20	コロナが理由で今まで行って来た話し合いの場がここ2年、役員の人だけの話し合いだけで、全戸に伝って来なくなりました。災害については、コロナ対策を行いなから、会議等は行うべきだと思います。
21	町内会単位でもっと活動を広げていけたらいいと思うが、町内会では、年に2回の「ドロくらい」等でしか顔をあわせる事もないので、コミュニケーションそのものがうすいと感じる。市だけの活動でなく、意識を広げるには身近な町内会からの発信が大切だ。
22	賃貸住宅なので人とかかわる事が少ない。
23	「向こう三軒両隣り」は、もう昔の話でしょうか? 個人情報保護法やコロナ禍もあり、地域力がぐ〜んと落ちてる気がします。地域力はすぐには育ちません。今のうちに…今のうちに…何か方法はないかと(自分に出来ることを)考えてしまいます。
24	転勤族、アパート暮らしで昨年引越してきましたが、町内会や子ども会に声をかけられなかったのは十和田が初めてです。近所にどんな人が住んでいるのかも知らず、いざという時に声をかける相手もないので、コミュニティの強化を望みます。

25	<p>職場で適応障がいと診断され復帰するために伴走してくれるサポートする人(理解者・認知行動療法等アドバイスしてくれる人、管理して社会復帰へとつなげる役割の人)が必要。十和田市の医師は、診断書を出し薬を出すだけ、苦しんでいる若者が多すぎる。その人たちの声をきいてそう思います。</p> <p>個人の特性、育った環境、愛着問題、虐待をうけた子の「自己肯定感」を私たち大人が正しく学び、伝え個人を尊重し承認することが大切。全ては自己肯定感の低さ。大人も子供も。自己肯定感を育むスペシャリストが十和田市にもいます。心療内科医●●●●医師のもと学び、認定をうけ地域で発信していますので、ぜひ注目し、講演会やセミナーを依頼して下さい。きっと誰のお役にも立てます。</p>
26	<p>東●番町に住んでいますが花だんや植木が無くなり、それに関係していた町内での花植えなどの行事が無くなり、近所の方々と顔を合わせなくなり淋しくなりました。孤独になっていくのはコロナのせいだけではないような気がします。</p>